

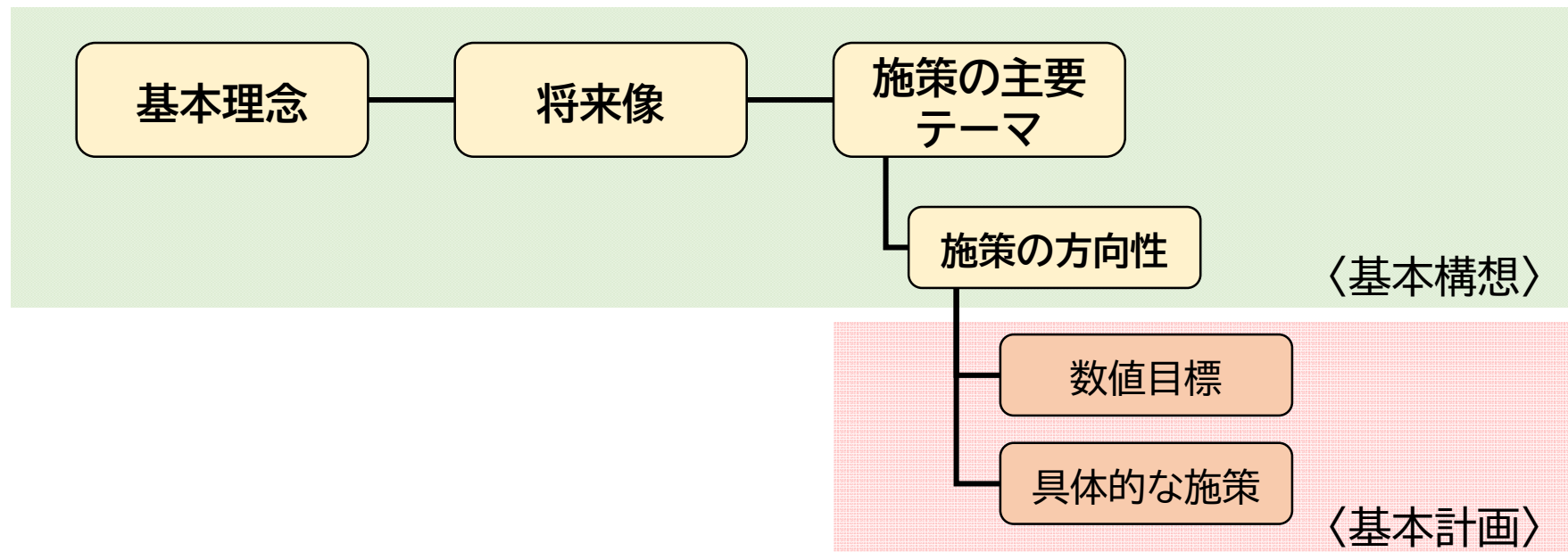
マスタープラン2017の検証と 今後の課題について

1. 相馬市マスタープランについて

●相馬市総合計画（マスタープラン）の変遷

策定年	計画名	将来像
1975(昭50)	相馬市総合計画	海と緑の健康都市相馬
1987(昭62)	第2次相馬市総合計画	個性豊かに未来に伸びる市民の市政
2001(平13)	第3次相馬市総合計画	活力あふれる創造的な交流・循環都市
2007(平19)	マスタープラン2007	未来に向かって伸び行く福祉と文化の都市そうま
2017(平29)	マスタープラン2017	たくましく。地域、暮らしをともに創り、 誇りを持てる相馬市へ
2027(令9)	マスタープラン2027(仮)	(社会情勢や市民の声を踏まえ検討)

●相馬市マスタープランの構成



2. マスタープラン2017について

①策定当時の社会情勢

震災復興

復興は未だ道半ばの状況

地方創生

少子高齢化・人口減少が全国的に課題

②市民参加(相馬市まちづくり協議会)



相馬市まちづくり協議会(会員:125名)の様子(2016年)

市の強み・弱み、将来像等を議論。
重要視する方向性として下記3点を定めた。

- 将来を担う子どもたちのための
「教育・子育て」
- 若者の働く場所や定住のための
「企業誘致・雇用」
- 交流人口の増加のための
「観光」

③基本理念と将来像

まちづくり協議会が示す方向性も踏まえ、
マスタープラン2017の基本理念と将来像を決定。

◆基本理念

1. 市民参画による協働で創る相馬市
2. 安全・安心が実感できる相馬市
3. 子どもたちが将来に希望をもてる相馬市
4. いきがいをもって働くことのできる相馬市
5. 高齢者がいつまでも健やかに暮らせる相馬市

◆将来像

たくましく。
地域、暮らしをともに創り、
誇りをもてる相馬市へ
～子どもたちに希望を 青壮年にいきがいを 高齢者に安心を～

3. マスタープラン2017 十年間の主なうごき①

●復興関連のインフラ整備



相馬福島道路開通



JR常磐線全線再開通



避難道路の整備



災害市営住宅の払い下げ

●交流人口拡大の取組



浜の駅松川浦(R2年オープン、R7年増築)



ビーチバレーボール場



尾浜こども公園



騎馬武者体験

3. マスタープラン2017 十年間の主なうごき②

●子育て環境整備



エル・システム事業
(子どもオーケストラ)



放課後児童クラブの拡充



おやこ教室



小中学校給食費無償化

●企業誘致・教育の充実



誘致企業の一例
(左：㈱アイ・テック、 右：㈲ドリームズファーム)



読解力向上のための
リーディングスキルテスト
(RST)を活用した授業の推進



キャリア教育



子ども科学フェスティバル

3. マスタープラン2017 十年間の主なうごき③

●健康推進・高齢化社会対応



高齢者スポーツ大会



「骨太けんこう体操」の推進



おでかけミニバスの運行

●防災力強化・行政のDX、効率化



防災訓練（図上訓練）



ポンプ車訓練



災害時における
相互応援に関する協定締結



マイナンバーカードの普及促進、行政DX

3. マスタープラン2017 十年間の主なうごき④

●市の特産品のPR



天然トラフグ「福とら」ブランド化



魅力発信事業



ふるさと納税返礼品拡充



市外での特産品PR
(東京都稲城市)

●災害・コロナ禍対応（令和元年東日本台風、令和3年・令和4年福島県沖地震、コロナ禍対応）



避難所運営(令和元年東日本台風)



罹災調査の様子



新型コロナワクチン集団接種

マスタープラン2017で掲げた数値目標(全56項目)の令和8年度目標値の達成見込みについて、令和7年度末の状況を踏まえ自己評価を実施。

◆ 章・節ごとの数値目標の評価結果（◎、○、×の個数）

評価	指標数
◎：目標値を達成(見込)	25
○：目標値の8～9割程度は達成(見込)	7
×：上記以外(未達となる見込)	24

章・節	◎	○	×	章・節	◎	○	×
第1章 市民協働による健全な基礎自治体づくり				5.3 青少年の健全育成活動の充実		1	
1.1 情報発信と市民協働による相馬市づくり			1	5.4 男女共同参画社会づくりの推進			1
1.2 自治体経営			1	5.5 地域間交流の推進		1	
1.3 健全な財政運営	1	1	1	5.6 スポーツ・レクリエーション活動の充実			2
第2章 震災から復興した新たな相馬づくり				第6章 環境を守り安全に暮らせるふるさとづくり			
2.1 災害に強い安全で安心な地域づくり	1			6.1 環境保全体制の整備と低炭素社会の推進	8		
2.2 生活再建の基盤づくり	1	1		6.2 市民総参加によるごみ減量活動とリサイクル体制の推進	1		1
第3章 安心な子育て環境の整備と心豊かなひとづくり				6.3 消防、救急、救助体制の充実強化		1	1
3.1 子育て環境の整備			3	6.4 地域コミュニティによる防犯体制の充実	1		
3.2 人間形成の基礎を培う幼児教育の充実	1			6.5 交通安全の普及徹底	1		
3.3 生き抜く力を育む学校教育の充実	1	1	1	6.6 放射能対策			1
第4章 地域特性を活かした良質な産業づくり				第7章 健やかで安心して暮らせる地域づくり			
4.1 新たな農業の振興	1			7.1 健康づくりの推進と地域医療の充実			2
4.2 森林の保全			1	7.2 高齢者福祉の充実			1
4.3 水産業の振興			1	7.3 障がい者福祉の充実	1		
4.4 商工業の振興	1		1	7.4 国民健康保険、及び国民年金事業の適切な運営	1		
4.5 観光産業の振興	1			7.5 介護保険事業の効率的な運用	1		
4.6 雇用・労働環境の充実			1	第8章 着実な社会資本の整備と計画的な維持管理によるまちづくり			
第5章 地域の文化を守り心豊かに生き抜くひとづくり				8.1 暮らしやすいまちづくり	3		2
5.1 生涯学習推進体制の充実			1	8.2 震災を乗り越えた新たなまちづくり		1	
5.2 芸術文化の振興と文化財の保存、活用			1	合計	25	7	24

4. 相馬市マスタープラン2017の検証

評価◎、○となった目標項目
(32項目) について

章・節	項目	当初数値 (H27年度)	目標値 (R8年度末)	現状値 (R7年度末)	評価	評価補足
2.1 災害に強い安全で安心な地域づくり	自主防災組織の防災訓練実施数	3回	10回	18回	◎	自主防災組織の活動支援により実施数を増やしてきた
2.2 生活再建の基盤づくり	住宅完成区画数	101区画	118(※112)区画 ※希望総数	112区画	◎	全ての希望者に支援することができた
	災害市営住宅入居済み数	358戸	410(※322)戸 ※払下げ分88戸を除く数値	305戸	○	410戸を整備し、88戸を希望者に払下げした。現在の管理戸数は322戸で入居率94.7%
8.2 震災を乗り越えた新たなまちづくり	災害危険区域の土地利用率	32%	75%	72.91%	○	着実に利用率を伸ばしてきた

● 総評：震災からの復興に関して、ハード面は順調に終了。災害に強い地域を目指し、防災訓練などの防災対策も進んできた。

4.1 新たな農業の振興	農業法人数	8法人	15法人	20法人	◎	農地の集約化と、営農主体の大規模化・法人化を推進した
4.4 商工業の振興	製造品出荷額	1,552億円	1,650億円	3,278億円	◎	震災からの復興過程を経て、堅調な回復・成長基調を維持
4.5 観光産業の振興	観光客入込み数	650千人	750千人	1,268千人	◎	浜の駅松川浦の効果もあり目標を達成
5.5 地域間交流の推進	交流事業数	4事業	8事業	6事業	○	姉妹、友好4都市に加え裾野市、泉佐野市と定期的に、その他の都市とも随時の交流を実施

● 総評：産業と交流の面において、震災後の落ち込みからの立ち直りを果たすことができた。

1.3 健全な財政運営	市税収納率（現年課税分）	98.6%	99.2%	99.0%	○	目標値にわずかに届かなかったが、着実に向上してきた
	財政調整基金残高	46億円	35億円を下回らない	49億円	◎	行財政改革を推進し、残高目標を達成
7.4 国民健康保険、及び国民年金事業の適切な運営	国民健康保険税収納率（現年課税分）	90.4%	92.0%	93.71%	◎	市税収納率と同様、着実に向上してきた

● 総評：長期的な財政基盤の安定のため、歳入の確保、歳出の適正化に努め、健全な財政運営を行うことができた。

章・節	項目	当初数値 (H27年度)	目標値 (R8年度末)	現状値 (R7年度末)	評価	評価補足
3.2人間形成の基礎を培う幼児教育の充実	保護者アンケートの「幼稚園は、魅力ある園づくりに努めている。」で、「そう思う」と回答した保護者の割合	80%	90%	90%	◎	
3.3 生き抜く力を育む学校教育の充実	教育用コンピューター1台あたりの児童生徒数	7.72人	1人	0.8人	◎	1人1台の配備を完了し、教育の充実のために活用している
	う歯り患率	小学校56.6% 中学校43.2%	小学校45.0% 中学校35.0%	小学校43.2% 中学校40.2%	○	学校でのフッ化物洗口の効果により、り患率が低下した
● 総評： <u>学校・幼稚園の教育環境の整備や児童生徒の健康管理が進んできた。</u>						
5.3 青少年の健全育成活動の充実	顕著な活動をしている青少年健全育成団体数	36団体	40団体	35団体	○	コロナの影響で一時は落ち込んだがその後回復傾向にある
6.3 消防、救急、救助体制の充実強化	住宅用火災報知機の設置率	52%	100%	76%	○	目標には到達しなかったが設置率は向上してきた
6.4 地域コミュニティによる防犯体制の充実	刑法犯の認知・検挙件数	267件	192件	167件	◎	
6.5 交通安全の普及徹底	交通事故発生件数	133件	80件以下	58件	◎	
● 総評： <u>地域の安心安全に関わる消防・防犯・交通安全・青少年健全育成の対応が進んできた。</u>						
7.5 介護保険事業の効率的な運用	一般介護予防事業に参加した人数	—	第1号被保険者の5%	6.8%	◎	市が独自に考案した「骨太けんこう体操」の取組が浸透
7.3 障がい者福祉の充実	在宅福祉サービスの利用率	4.8%	5.5%	9.51%	◎	
● 総評： <u>介護予防事業を始めとした福祉分野の対応が進んできた。</u>						

章・節	項目	当初数値 (H27年度)	目標値 (R8年度末)	現状値 (R7年度末)	評価	評価補足
6.1 環境保全体制の整備と低炭素社会の推進	大気汚染 (光化学オキシダント濃度)	0.043ppm	環境基準値 0.06ppm以下	0.047ppm	◎	いずれの項目も環境基準値を下回っており目標達成。 ほとんどの項目でH27年度当時より改善している。
	大気汚染 (環境中のダイオキシン類濃度)	0.0074 pg-TEQ/m³	環境基準値 0.6pg-TEQ/m³ 以下	0.0042 pg-TEQ/m³	◎	
	水質【BOD値】小泉川(小泉橋)	1.7mg/L	環境基準値 2mg/L以下	0.8mg/L	◎	
	水質【BOD値】小泉川(百間橋)	2.0mg/L		1.7mg/L	◎	
	水質【BOD値】宇多川(堀坂橋)	0.9mg/L		0.5mg/L	◎	
	水質【BOD値】宇多川(百間橋)	1.3mg/L		0.7mg/L	◎	
	自動車騒音(要請限度) 国道115号(山上)	昼間：70dB 夜間：60dB	幹線道路 環境基準値 昼間：75dB 夜間：70dB 以下	昼間：65dB 夜間：55dB	◎	
自動車騒音(要請限度) 県道山上赤木線(中屋敷)	昼間：65dB 夜間：49dB	昼間：59dB 夜間：50dB		◎		
6.2 市民総参加によるごみ減量活動とリサイクル体制の推進	1人1日当たりのごみ排出量	1,101g	1,055g	975g	◎	排出量は減少し目標は達成したが、全国的には未だ多い方であり、更なる削減が必要
● 総評：環境に関する数値が改善し、ごみ排出量の低下するなど、生活環境の改善がみられた。						
8.1 暮らしやすいまちづくり	橋りょうの長寿命化計画による修繕率	-	29%	29%	◎	目標数値は厚生労働省の水道統計に基づくデータに変更
	水道管の耐震化率	28.10%	32.50%	32.88%	◎	
	市営住宅の下水道接続率	69%	95%(※87%) ※政策空き家等を 除く目標	87%	◎	
● 総評：インフラの整備を着実に実施してきた。						

4. 相馬市マスタープラン2017の検証

評価×となった目標項目
(24項目) について

章・節	項目	当初数値 (H27年度)	目標値 (R8年度末)	現状値 (R7年度末)	評価	評価補足
4.4 商工業の振興	年間商業販売額	718億円	746億円	690億円	×	人口減少や水害・地震・後継者不足等による下落傾向
4.6 雇用・労働環境の充実	工業団地内における新規雇用者	126名	135名	59名	×	全国的な人手不足により、新規雇用者獲得が厳しい状況
5.1 生涯学習推進体制の充実	図書館利用者数	100,909人	105,000人	76,499人	×	
5.2 芸術文化の振興と文化財の保存、活用	歴史資料収蔵館の来館者数	3,816人	5,000人	2,752人	×	
5.6 スポーツ・レクリエーション活動の充実	スポーツ少年団員の登録者数	706人	730人	448人	×	
	スポーツ施設の年間利用者数	390,719人	400,000人	305,628人	×	相馬こどもドームは、改修工事による利用停止期間の影響
8.1 暮らしやすいまちづくり	公共下水道接続率	89.6%	97.0%	89.4%	×	接続率→接続されている人口をもとに算出。都市部の人口減少が影響

● 総評： 少子化や人口減少が進み、公共施設の利用者が減少。企業活動においても人手不足・後継者不足の状況となっている。

3.1 子育て環境の整備	放課後児童クラブ待機児童数	81人	0人	44人	×	新規児童クラブを開設するなど拡充を図るも、利用希望者の増加により待機児童発生。
	保育所待機児童数	5人	0人	10人	×	保育士等の人員不足により定員までの受入れができない。
	この地域で子育てがしたいと思う親の割合	90.7%	95.0%	89.4%	×	
3.3 生き抜く力を育む学校教育の充実	学力の向上(全国学力学習状況調査の標準化得点)	8教科中3教科で100(全国値)を上回る	8教科中8教科で100(全国値)を上回る	小学校国語、算数が全国平均を上回る	×	目標には到達しなかったが、RSの視点を意識した授業改善の取組の成果が出始めている

● 総評： 子育て環境を整備してきたが、共働き世帯が増加傾向にあり、さらなる充実が求められる状況。教育は読解力向上を目指し、RSの視点を意識した授業改善の取組を実施し、成果が出始めている。

章・節	項目	当初数値 (H27年度)	目標値 (R8年度末)	現状値 (R7年度末)	評価	評価補足
1.1 情報発信と市民協働による相馬づくり	行政区加入世帯数	10,449世帯	10,650世帯	8,931世帯	×	若者世帯を中心に全国的に行政区未加入の傾向にある
5.4 男女共同参画社会づくりの推進	審議会等における女性委員の登用率	22.1%	40.0%	19.7%	×	なり手側の心理的ハードルもあり女性登用が進んでいない
6.2 市民総参加によるごみ減量活動とリサイクル体制の推進	リサイクル率	13.3%	23.0%	9.8%	×	
6.3 消防、救急、救助体制の充実強化	普通救命講習新規受講者数	812人	800人	362人	×	コロナ禍の影響から回復しきっていない
6.6 放射能対策	放射線講演会の実施	15回	15回	10回	×	放射線に対する関心の低下もあり出前講座依頼数が低下
7.1 健康づくりの推進と地域医療の充実	特定健康診査受診率	40.7%	60.0%	48.0%	×	受診率は向上してきたが、高齢者の受診率が伸びない
	体格指数(BMI)25以上の者の割合	男性 36.0% 女性 28.7%	男性 30.0% 女性 24.0%	男性 40.7% 女性 30.5%	×	
7.2 高齢者福祉の充実	声かけ訪問サービスボランティア団体数	33団体	45団体	33団体	×	メンバー自身の高齢化もあり活動が先細りになっている
8.1 暮らしやすいまちづくり	合併処理浄化槽設置率	27.5%	50.0%	37.7%	×	当初より設置率は向上するも目標水準には到達せず

● 総評：市民の協力と参加が目標達成に必須となる項目について、評価×となる傾向が目立つ。
より一層のPRと呼びかけ方法の工夫が求められる。

[illegible]

4. 相馬市マスタープラン2017の検証

市民及び職員の意識調査を踏まえた検証

- ・ 市民アンケート
- ・ 中高生アンケート
- ・ 職員アンケート

● 市民アンケート実施結果について

(1) 実施概要

実施期間	令和8年4月15日～5月17日
対象者	18歳以上の市民（※） 対象者数：27,013名 ※高校生世代は中高生アンケートを別途実施するため対象外とした
実施方法	無作為抽出：3,000名 + 希望者に窓口配布
回答数	591件（※）（無作為抽出分の回答数551件、窓口配布分40件） ※必要サンプル数379件（信頼レベル95%、許容誤差±5%）を満たしている
回答率	18.4%（※）（551件／3000件） ※無作為抽出分についての回答率
備考	一般的に若い世代の回答率が低くなる傾向があることから、無作為抽出の際に18～39歳世代を重点的に抽出（オーバーサンプリング）。集計時は補正（ウエイトバック集計）を実施。

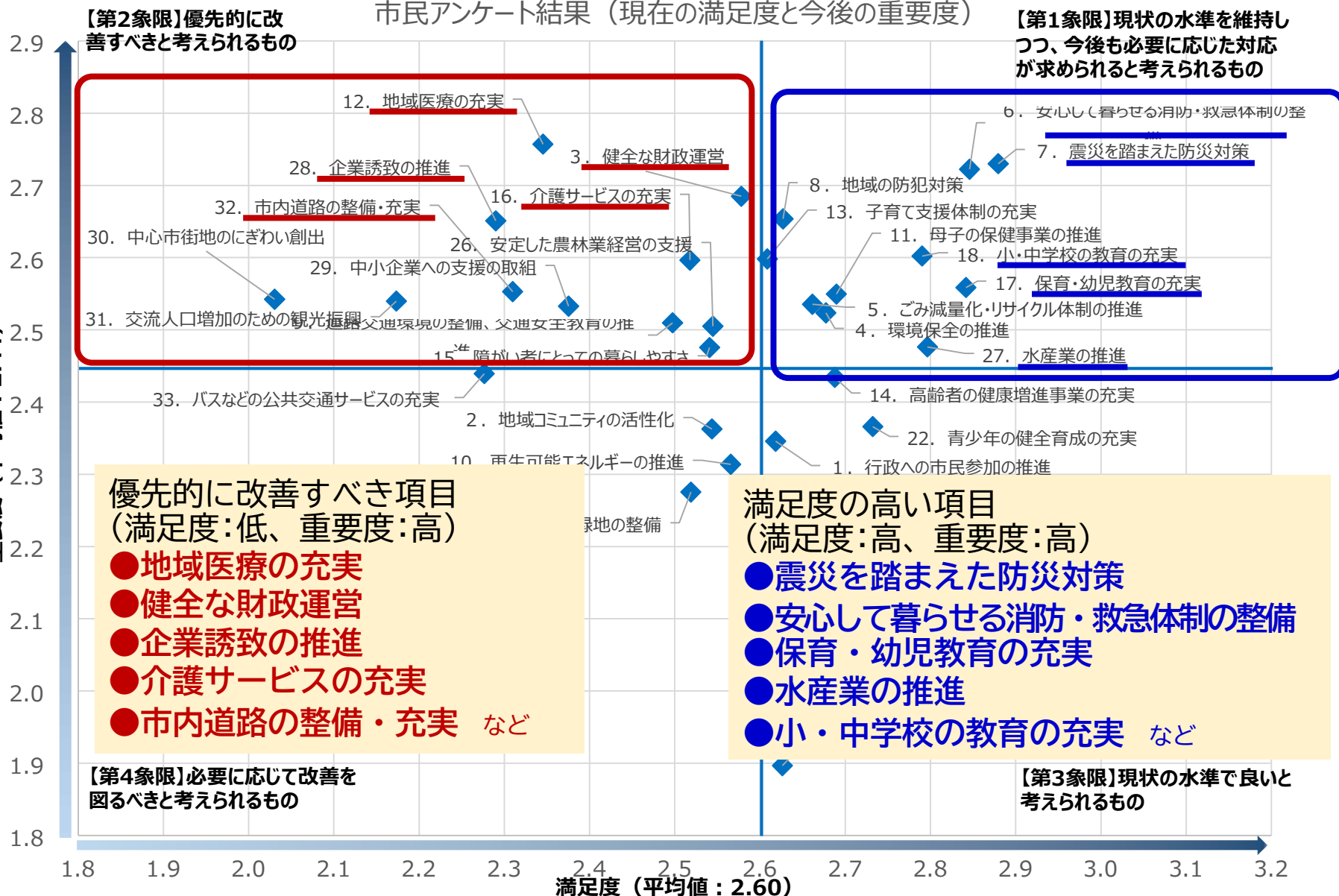
(2) アンケート項目

①市の取組についての評価	市政全般（35項目）について現在の満足度、今後の重要度
②今後市が取組を強化すべき課題	21個の選択肢より選択（3つまで）
③理想とする市の将来像	24個の選択肢より選択（3つまで）
④これからのまちづくりに対する意見	自由意見

● 市民アンケート実施結果について

①市の取組についての評価 [資料4-1] P.2～10

市民アンケート結果（現在の満足度と今後の重要度）



● 市民アンケート実施結果について

②今後市が取組を強化すべき課題 [資料4-1] P.12～13

順位	取組を強化すべき課題	分野
1	Uターン者の増加のための企業誘致と働く場の充実	人口減少への対応
2	医師不足対策や医療アクセス向上のための遠隔医療環境の整備	高齢化・担い手不足への対応
3	若者を呼び込むための商業施設の誘致	市街地空洞化への対応
4	道路や下水道などのインフラの老朽化対策	行政運営の最適化
5	農業の担い手不足と耕作放棄地の対策	高齢化・担い手不足への対応
6	激甚化する自然災害への備えと防災インフラの整備	気候変動への対応
7	空き家対策・事業承継対策の強化	市街地空洞化への対応
8	相馬駅の東西アクセス整備を含む市街地の再整備	市街地空洞化への対応
9	市外からの新規移住者の獲得に向けた補助制度の充実	人口減少への対応
10	税収減少に対応するための自主財源確保（ふるさと納税の強化等）	行政運営の最適化

● 市民アンケート実施結果について

③理想とする市の将来像 [資料4-1] P. 14～15

順位	理想とする将来像	キーワード
1	「医療・介護」 必要な医療や介護サービスにアクセスしやすいまち	健康・福祉・支え合い
2	「仕事・活力」 地元企業が元気で、若者が働く場所があるまち	産業・仕事・活力
3	「安心・安全」 災害に強く、安全で誰もが穏やかに暮らせるまち	安全・安心・暮らし
4	「移動・交通」 車がなくても、行きたい場所へ行ける公共交通手段があるまち	安全・安心・暮らし
5	「教育・成長」 子どもたちが心身ともに伸び伸びと育ち可能性を広げることができるまち	子育て・教育・文化
6	「子育て・温もり」 子どもの笑顔が絶えない、温かく親子にやさしいまち	子育て・教育・文化
7	「環境・自然」 自然環境を守り、海や山の豊かな自然と共存するまち	環境・交流・まちづくり
8	「遊び・レジャー」 海や山の資源を全力で遊び尽くせるレジャーのあるまち	環境・交流・まちづくり
9	「観光・特産品」 観光や特産品などの魅力を磨き市外から稼ぐことができるまち	産業・仕事・活力
10	「笑顔・共生」 誰もが尊重され自分らしく生きられる、笑顔あふれるまち	健康・福祉・支え合い

● 市民アンケート実施結果について

④これからのまちづくりに対する意見（自由意見777件の分析） [資料4-1] P.16～76

No.	頻出キーワード	内容
1	産婦人科 (設置・誘致・分娩環境)	市内に産婦人科がないことへの不安の声が非常に多い。妊婦健診で市外まで通う負担が重く、安心して子供を産める環境整備を望む。
2	南相馬市 (比較・格差)	子育て支援策や商業施設の充実度において、南相馬市を基準に「相馬市は劣っている」と評価する意見が非常に多い。
3	商業施設・イオン (再開・誘致)	地震で閉鎖されたイオンの早期再開を願う声が圧倒的に多い。その他有名チェーンの飲食店や店舗を望む声多数。
4	子育て支援 (保育料無償化・助成金)	保育料の負担軽減や出産祝金、オムツ等の支給といった直接的な経済支援を求める意見が目立つ。隣接自治体との制度格差も。
5	街灯・外灯 (夜間の安全・防犯)	「夜道が暗すぎて危険」という訴えが多く、子供の通学路や防犯、高齢者の安全歩行のために街灯の増設が各地区で切望されている。
6	空き家・空地 (対策・活用)	倒壊の恐れがある空き家や、管理不全の空き地に対する不安が多く、防犯・景観の観点から撤去や活用が提案されている。
7	公共交通 (バス・駅東口・移動手段)	高齢者の免許返納後の足や、JR相馬駅の東口開設による利便性向上に対する要望が多い。
8	相馬野馬追 (活性化・市民参加)	活性化のため、前夜祭や屋台村の復活など、観光客だけでなく「市民がより楽しめる祭り」への回帰を求める意見が見られる。
9	遊び場・屋内施設 (全天候型・子供の居場所)	酷暑や雨天でも子供が遊べる屋内施設の不足が指摘されている。市内中心部や山側への設置要望が多く挙る。
10	潮干狩り・松川浦 (レジャー復活・整備)	震災前のような賑わいを取り戻す象徴として、潮干狩りの復活や釣り場、キャンプ場の整備を期待する声がある。

● 中高生アンケート実施結果について

(1) 実施概要

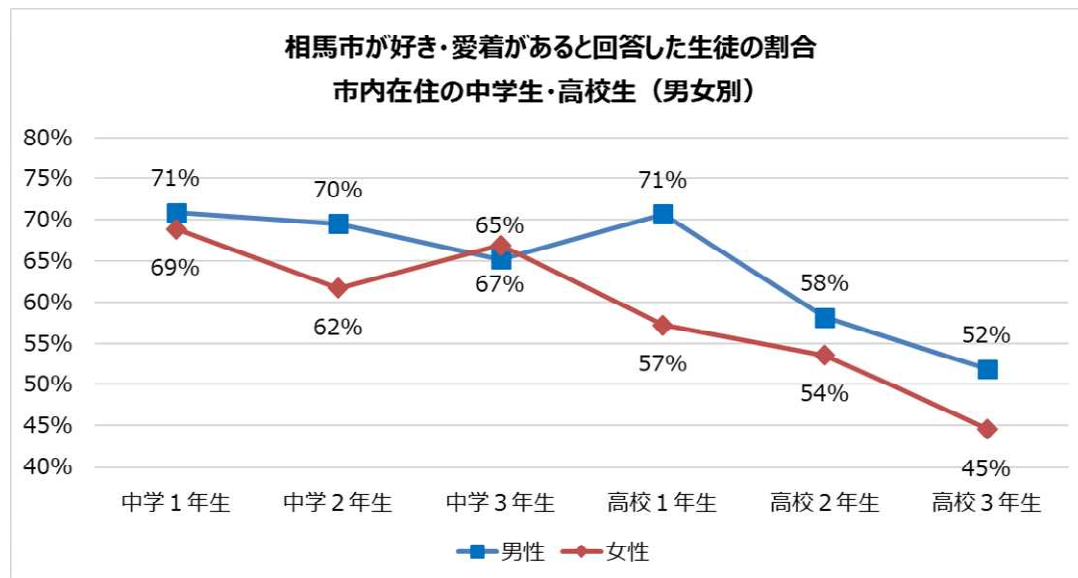
実施期間	令和8年6月29日～7月17日
対象者	市内にある全中学校、高等学校 対象者数：1, 833名
実施方法	学校に周知を依頼し、全生徒に案内文を配布。（オンライン回答）
回答数	1, 495件
回答率	81.6%

(2) アンケート項目

①相馬市への愛着の有無	はい／いいえ を選択
②相馬市の好きなところ・魅力的なところ	自由記述
③将来の進路（就職）の意向	将来どこで就職したいかについて、相馬市内または相馬市外（県内、仙台近郊、東京近郊、その他）から選択
市内で就職したい理由	選択式
市外で就職したい理由	選択式
④これからのまちづくりに対する意見	自由意見

● 中高生アンケート実施結果について

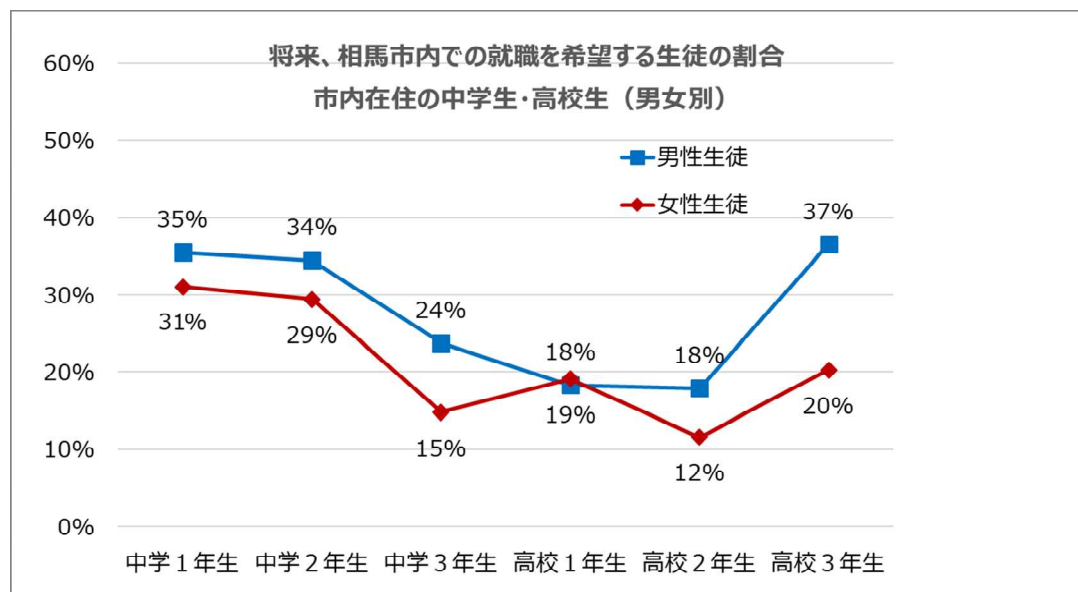
①相馬市への愛着の有無 [資料4-2] P. 2～3



相馬市への愛着は、学年が上がるにつれ低下する傾向。

また、男子より女子の方が低くなる傾向がある。

③将来の進路（就職）の意向 [資料4-2] P. 8～10



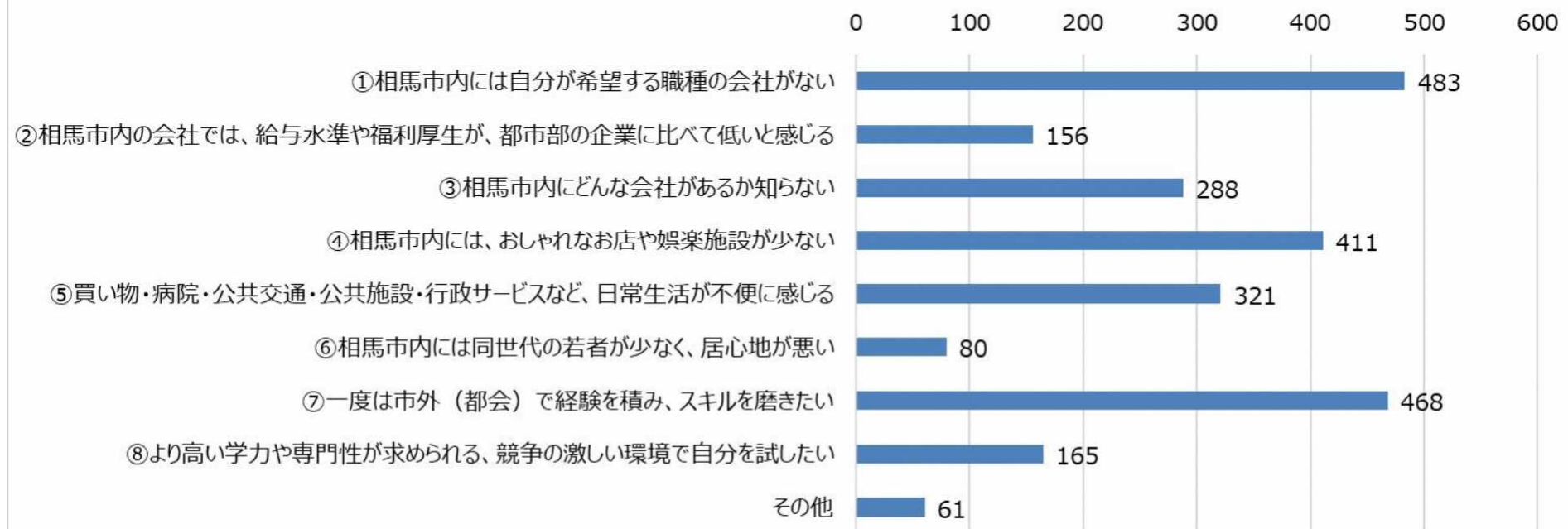
市内で就職を希望する生徒の割合は学年が上がるにつれ低下する傾向。

男子より女子の方が低くなる傾向。

● 中高生アンケート実施結果について

③将来の進路（就職）の意向 [資料4-2] P.11～14

相馬市外で就職したい理由



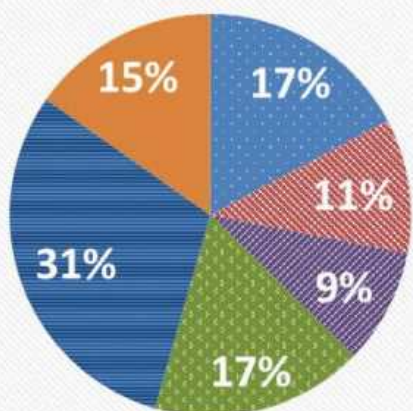
市外での就職したい理由（上位3つ）

- 市内には希望する職種の会社がない
- 一度は都会で経験を積みスキルを磨きたい
- おしゃれなお店や娯楽施設が少ない

● 中高生アンケート実施結果について

③将来の進路（就職）の意向 [資料4-2] P.11～14

相馬への帰還意向（2026年実施結果）



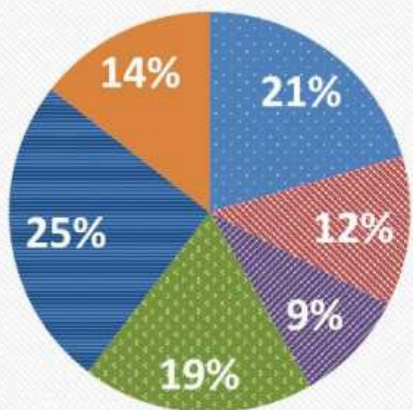
- ①30歳頃までには相馬に戻ってきたい
- ②結婚する頃に、相馬に戻ってきたい
- ③子どもを育てる頃に、相馬に戻ってきたい
- ④仕事を定年退職する頃に、相馬に戻ってきたい
- ⑤相馬に戻ってくるつもりはない
- ⑥出身が相馬ではないので、地元に戻りたい

市外就職を希望する生徒の将来の相馬への帰還意向

約54%が
いつか相馬に帰りたい

10年前の調査結果
(約61%)より低下

相馬への帰還意向（2016年実施結果）



- ①30歳頃までには相馬に戻ってきたい
- ②結婚する頃に、相馬に戻ってきたい
- ③子どもを育てる頃に、相馬に戻ってきたい
- ④仕事を定年退職する頃に、相馬に戻ってきたい
- ⑤相馬に戻ってくるつもりはない
- ⑥出身が相馬ではないので、地元に戻りたい

● 中高生アンケート実施結果について

④これからのまちづくりに対する意見（自由意見841件の分析） [資料4-2] P. 15～36

No.	頻出キーワード	内容
1	イオン・ジャスコ・ショッピングモール	「ジャスコ（イオン）」の早期再開を望む声が多数。単なる買い物の場としてだけでなく、映画館、ゲームセンターを併設した複合施設を望む声が多い。市内で買い物が完結する状態を求める声が目立つ。
2	娯楽・遊び場・ゲームセンター	「遊ぶ場所が少なすぎる」という不満。友達と過ごせる場所や、小さい子どもが室内で遊べる施設、アスレチック、遊園地、水族館など、「子どもから大人まで楽しめる」レジャー施設に対する要望も多い。
3	飲食店・有名チェーン店	「飲食店」や特定のチェーン店名（スタバ、サイゼリヤ、ミスドなど）も頻出。単に食べるだけでなく、勉強や会話ができるカフェ、放課後に立ち寄れるファミレスなど、若者が集まれる場所を希望。
4	公園・スポーツ施設	「公園」や、体を動かすための「施設（アリーナ、コート）」への言及も多数。広い公園、バスケットボールのストリートコート、陸上競技場などスポーツを楽しめる環境の充実を希望。
5	自然・海・伝統（野馬追）	美化活動の必要性や、豊かな自然を守ることの訴えや、野馬追や海産物等「相馬ならではの強み」を活かしたイベント、SNSでの宣伝、体験型観光（乗馬、釣りなど）の強化の声がある。
6	交通・インフラ・道路	電車の本数を増やすことや運賃の引き下げ、道路のひび割れ修理、街灯の増設など、「安全で移動しやすい街」を求める声がある。
7	若者・子ども・支援	若者が住み続けたいと思えるよう、まちの魅力を高めること、また子育て支援の充実を期待する声がある。

● 職員アンケート実施結果について

(1) 実施概要

実施期間	令和8年3月12日～4月17日
対象者	部長・参事・課長相当職を除く全職員（269名）
実施方法	庁内全職員に周知（オンラインで回答）
回答数	101件
回答率	38%

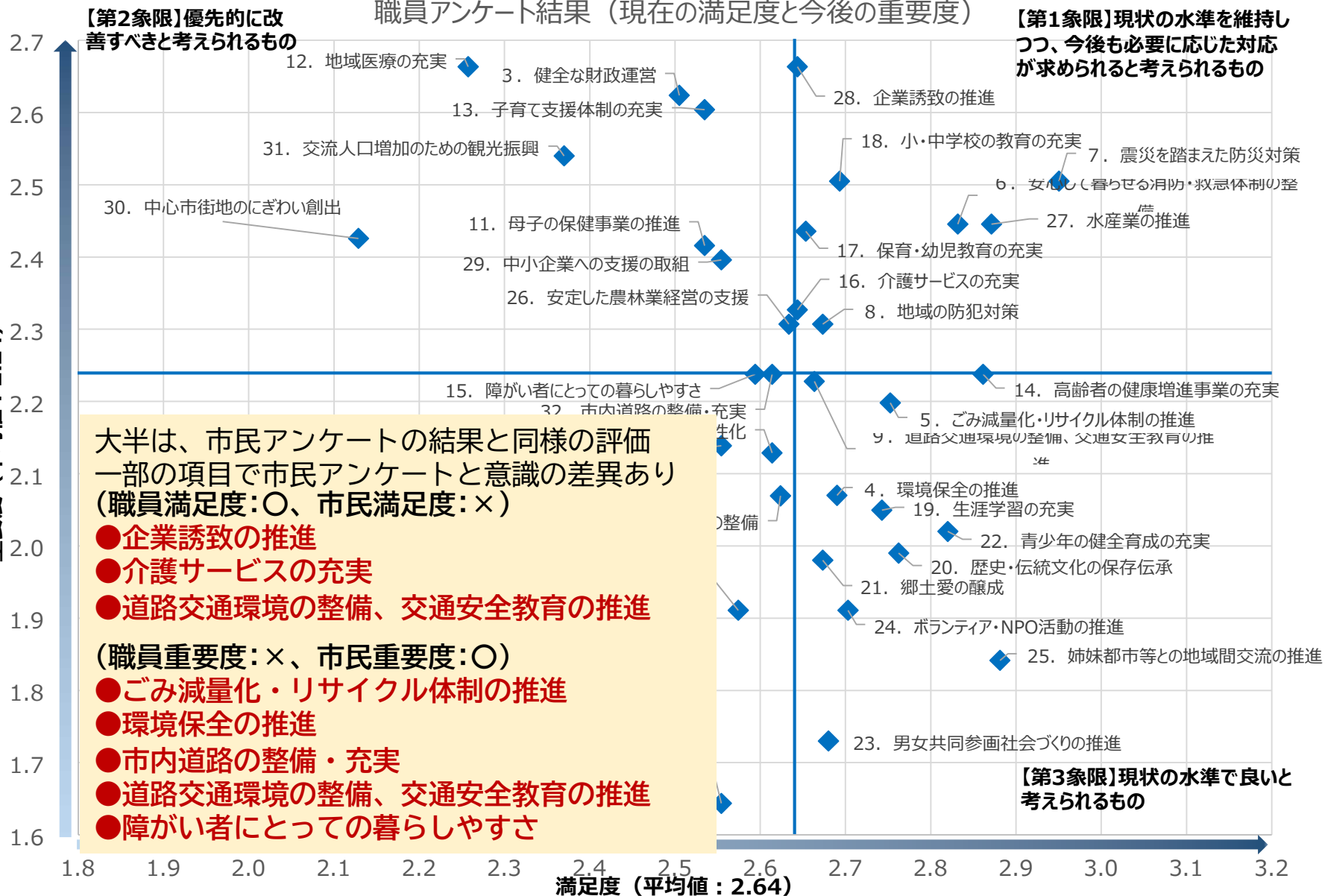
(2) アンケート項目

①市の取組についての評価	市政全般（35項目）について現在の満足度、今後の重要度
②今後市が取組を強化すべき課題	自由記述
③これからの働き方や職場・組織のあり方	自由記述
④今後のまちづくりに生かすべき市の特性・強み	自由記述
⑤政策提言	自由記述
⑥理想の将来像	自由記述
⑦新総合計画に対する意見	自由記述

職員アンケート実施結果について

①市の取組についての評価 [資料4-3] P. 2～3

職員アンケート結果（現在の満足度と今後の重要度）



職員アンケート実施結果について

②今後市が取組を強化すべき課題 [資料4-3] P.5～14

No.	分野	意見の数
1	産業・雇用・経済 (53 件)	①企業誘致・新産業誘致(18件) ②観光・交流の強化(16件) ③商業施設誘致(7件) ④一次産業・地場産品活性化(7件) ⑤商工業活性化施策(3件) ⑥地域おこし協力隊等(2件)
2	行政・財政・デジタル (44 件)	①公共施設や学校の統廃合 (11件) ②健全な行財政運営 (9件) ③戦略的な政策・選択と集中 (8件) ④デジタル化の推進 (5件) ⑤財源確保 (5件) ⑥地域コミュニティとの連携・人材確保 (4件) ⑦広域連携・共同化の推進 (2件)
3	子育て・教育 (28 件)	①子育て環境・支援の充実 (21件) ②教育の充実・学力向上 (7件)
4	移住・定住・人口対策 (26 件)	①若者流出抑止・定住対策 (10件) ②市の魅力づくり・アピール (7件) ③少子化・人口減少対策全般 (9件)
5	医療・福祉・保健 (20 件)	①産婦人科 (8件) ②地域医療・公立病院 (6件) ③福祉サービスの充実 (6件)
6	都市基盤・生活環境 (16 件)	①都市構造の見直し・再開発 (8件) ②道路・交通 (6件) ③ごみ減量と再利用推進 (2件)
7	防災・環境・安全 (6 件)	①防災・安全 (4件) ②エネルギー・環境 (2件)

● 職員アンケート実施結果について

④今後のまちづくりに生かすべき市の特性・強み [資料4-3] P.20～24

No.	分野	意見の数
1	自然・景観・気候 (31件)	①海と山に囲まれた自然環境(10件) ②暮らしやすい気候(9件) ③松川浦(8件) ④観光資源(4件)
2	産業・食・特産品 (30件)	①水産業・海産物(22件) ②工業団地・経済(4件) ③農業(4件)
3	都市基盤・交通・立地 (30件)	①港・道路・立地(23件) ②スポーツ施設(5件) ③土地(2件)
4	歴史・伝統・文化 (29件)	①歴史・文化・城下町(15件) ②相馬野馬追(14件)
5	組織力・ 職員の専門性 (23件)	①職員の資質(10件) ②小規模自治体ならではの一体感とスピード(5件) ③災害対応(5件) ④その他(3件)
6	人的資源・ 地域コミュニティ (22件)	①コミュニティと人間性(13件) ②震災・災害の経験(5件) ③郷土愛(2件)

● 職員アンケート実施結果について

⑦新総合計画に対する意見 [資料4-3] P. 37～38

No.	分野	意見の概要
1	計画の基本姿勢・現実性	「地に足の着いた計画」「現実を見据えた責任ある計画」など
2	重点化・選択と集中	「重点分野の明確化」「優先順位の提示」など
3	財政健全化・事業再編	「スクラップ&ビルドの明記」「財政計画との連動」など
4	市民協働・エンゲージメント	「市民・企業との共同」「住民目線の策定」「議論の場の創出」など
5	策定手法・表現の工夫	「わかりやすく端的な記載」「心に響くパワーワード」「前計画の検証」など

●職員からの意見（総合）

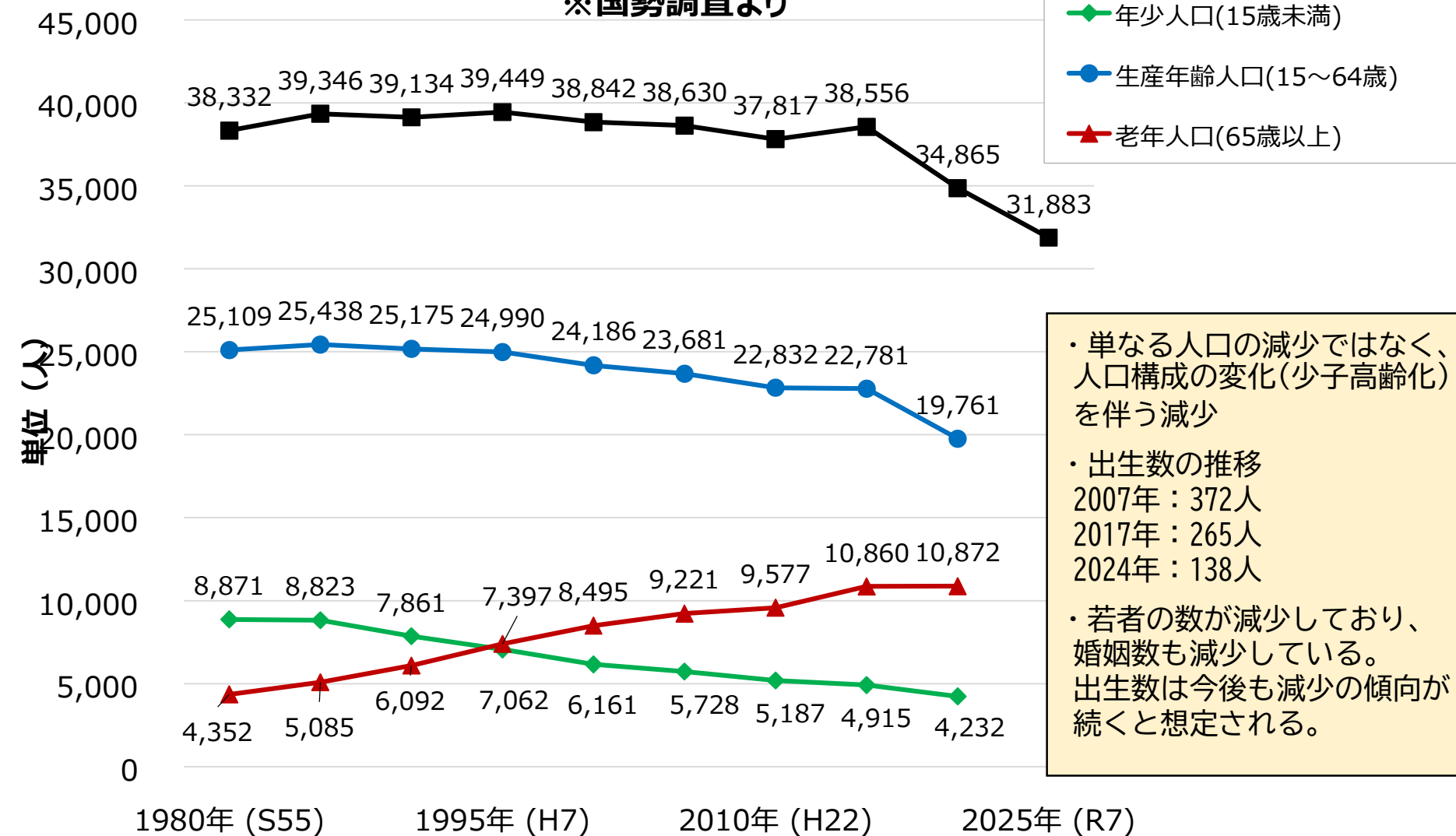
- ・すべての分野を平均的に扱うのではなく、何を捨て、何に集中するのかを明確にすべき
- ・役所特有の硬い文章ではなく、市民が自分事として捉えられる「わかりやすさ」を求めるべき
- ・人口減少に伴う財政難を背景に、単なる理想論ではなくスクラップ&ビルドを伴う実効性を重視すべき

5. 社会情勢の変化と市の課題

①人口減少について

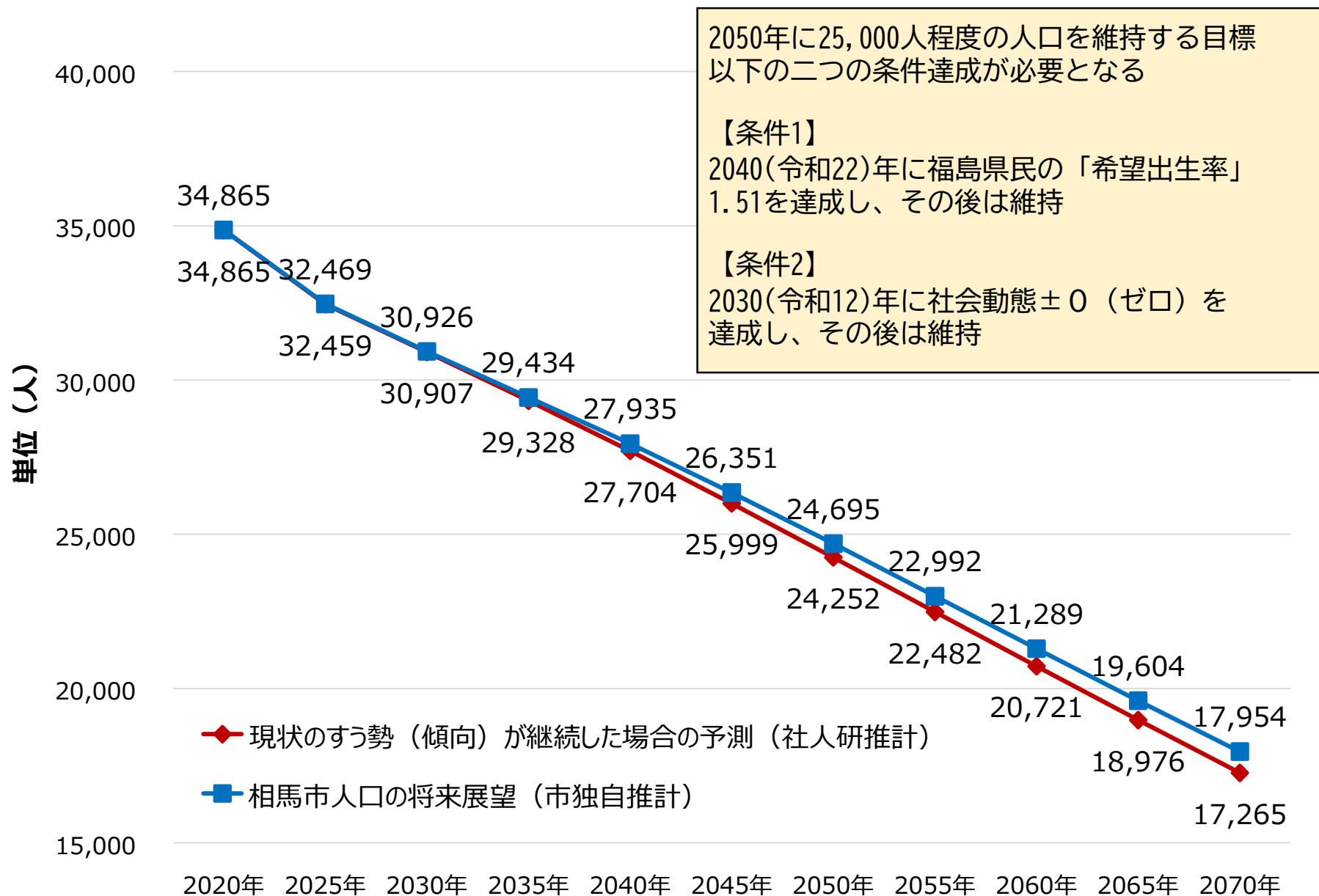
総人口及び年齢3区分別人口の推移（相馬市）

※国勢調査より



②人口の将来展望について

「相馬市人口ビジョン3.0」(令和7年3月策定)より



③今後10年程度の未来に予想される影響と課題

項目	予想される影響	課題
少子高齢化を伴う人口減少	・ 地域産業・文化の担い手不足や技術継承の困難化 ・ 市場の縮小による地域経済の衰退 ・ 公共交通の衰退と交通空白や買い物困難者の発生	・ 関係人口増加の取組 ・ 人口の社会減の抑制 ・ 公共交通サービスの再構築
財政の硬直化とインフラや公共施設の老朽化	・ 税収減少と社会保障費増加による財政の硬直化 ・ インフラや公共施設の維持管理が重荷に ・ 老朽化による道路陥没などの事故のリスクが高まる ・ 人口減少による技術系職員などの人材不足も影響	・ 公民連携による民間資金やノウハウ活用 ・ 施設の集約、再編、コンパクトシティ化 ・ 施設やインフラの予防保全への転換 ・ 広域連携による管理
気候変動に伴う災害の激甚化	・ 洪水や土砂災害の頻発化・激甚化 ・ 猛暑日、酷暑日が全国的に増加	・ 流域全体での対策「流域治水」への転換 ・ 比較的穏やかな気候を生かす
複雑な国際関係や、円安の進行など	・ 輸入に依存する食料・エネルギー・生産資材価格高騰 ・ インバウンド需要は拡大の好機	・ 一次産業の振興 ・ エネルギー地産地消の推進 ・ 稼げる地域産業への転換
AIの進展 (生成AIやフィジカルAI)	・ 人手不足を補う生産性向上が期待	・ AIを使いこなせる人材の確保・育成
若者・女性の流出	・ 若者が地方から去る背景 ⇒「昭和モデル」の生きづらさ ・ 多様な生き方を尊重できない地域は選ばれない	・ 若者や女性の参画推進 ・ 柔軟な働き方の導入や意識改革